

会 議 録

会議の名称	補助金等見直し検討部会（第23回）
開催日時	平成24年10月24日（水） （午前・ 午後 ）4時00分開会 （午前・ 午後 ）5時30分閉会
開催場所	男女共生センターローズWAM5階（501、502号室）
出席者	<p>【外部委員】 坪内隆、中森孝文、杉田宗三</p> <p>【検討部会員】 河井企画財政部長、秋元財政課長、小田地域教育振興課長、山寄政策法務課長、大神人権・男女共生課長、北達市民活動推進課長、原田福祉政策課長、田川高齢介護課長、大神農林課長、鎌谷道路交通課長、乾教育政策課長、前田学校教育推進課長、池田市民学習課長、増田青少年課長、中井スポーツ振興課長</p> <p>【作業部会員】 岡田政策企画課主幹、岩崎財政課係長、中尾政策法務課長代理、多田人権・男女共生課長代理、岸本福祉政策課係長、村上高齢介護課係長、河原商工労政課係長、内田農林課係長、井澤環境政策課主査、馬場都市政策課参事、福田まちづくり支援課長代理、砂金道路交通課係長、阿曾教育政策課主査、上田学校教育推進課主幹、小河地域教育振興課主査、加藤市民学習課係長、小島青少年課長代理、大八木スポーツ振興課長代理、松澤同課係長、中井消防本部総務課参事、野村議会事務局総務課長代理、北川財政課職員</p>
事務局職員	係員1人
開催形態	公開（傍聴者1人）
議題(案件)	<p>(1) 各補助金等の検証 H 公的委員が円滑に活動するために当該委員で組織する団体への補助金 F 農林業団体が行う事業に対する補助金（F-01～05）</p>
配布資料	<p>(1) 補助金等適正化検証シート (2) 追加資料</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議長	<p>前回に引き続き、補助金等適正化検証シートについて審議をする。まずは、前回の宿題となった「H 公的委員が円滑に活動するために当該委員で組織する団体への補助金」について、追加の説明資料とともに説明してもらいたい。</p>
説明員	<p>【議題1 各補助金等の検証】 【H 公的委員が円滑に活動するために当該委員で組織する団体への補助金】 <資料 公的委員で組織する団体への補助金について（人権擁護委員会・民生委員児童委員協議会・保護司会）に沿って説明></p>
議長	<p>追加資料に合わせて、補助金等適正化検証シートの10ページを修正したものを、今回配布している。</p>
外部委員	<p>追加資料の図にある「団体の運営費」とは、どの程度の規模なのか。</p>
説明員	<p>補助金等適正化検証シートの11ページにおいて団体情報を整理しており、その中で「市補助金」として8,264,000円を掲載している。その一部が団体の運営費となるが、およそ200万円くらいだったと思う。</p>
外部委員	<p>地区ごとの連絡調整会議は運営費に含まれるのか。</p>
説明員	<p>連絡調整会議は事業費に含まれ、運営費にはあたらない。</p>
外部委員	<p>200万円程度なら総額から見れば小さい。運営費を無くしてしまっても構わないのか。研修への参加費は損なわれないのか。</p>
説明員	<p>研修への参加費は、事業費において手当するので、支障は無い。</p>
外部委員	<p>運営費の内容は、どのようなものなのか。</p>
説明員	<p>総会の開催や、上部団体への研修費用等を想定しており、割合は小さい。</p>
外部委員	<p>ほとんどの費用を事業費として続けるのであれば、わずかしかならない運営費への補助を見直すことの意義が分かりにくい。事業費と運営費を分ける意義が感じられない。小さいのであれば、ついでに出せば良いのではないのか。運営費を出す方が、市の姿勢としてはむしろ良いのではないのか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議長	今回の見直しの趣旨は、少しでも透明性を向上していくことにある。団体運営ではなく、事業費補助へ移行していくことが、大きな方向性である。
検討部会員	分かりやすくするためにも、連絡調整よりも、機関誌の作成・配布や啓発活動等を事業としてとらえていくようにしたい。
外部委員	団体の管理的経費に対する補助を廃止するにあたり、解釈においてボーダーライン上のものがあり、曖昧になってしまっている。団体それぞれの特徴によって差異はあるだろうが、実態として金額の比率のような、具体的な数字を入れた資料を提示できれば、各委員も理解しやすいのではないか。
議長	ご指摘に応じた資料を作成する。
説明員	<p style="text-align: center;">【F-01 茨木市森林整備事業補助金】</p> <p><資料 補助金等適正化検証シート (F-01) に沿って説明></p>
外部委員	整備事業の有効性についてだが、この事業が無くなると支障があるのか。
説明員	材木を売っても収入が見合わないことから、放置されることになり、森林が荒れてしまうことになる。そこで、災害防止や景観保全という森林の機能に着目して、補助を作っている。
外部委員	国有林や市有林なのか。
説明員	私有林である。個人で整備するのではなく、所有者が組合会員となり、組合に依頼して整備するという仕組みである。
外部委員	個人の森林なのに、自己負担は無いのか。
説明員	固定資産税のほか、若干の個人負担がある。
外部委員	大阪府森林組合のうち、三島支店が占める割合はどの程度か。
説明員	支店が豊能、三島、河内、泉州の4つあるので、4分の1程度となる。
外部委員	人件費ではないのか。補助対象としている事業費である約390万円の内訳

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
説明員	<p>は、運搬費が大きいのか。</p> <p>管理的経費は含まれないが、労務費や機械の費用は含まれる。</p>
外部委員	<p>重要な事業ではあるが、いつまで続けるのかを検討すべきではないか。私有林の整備を市や府が担い続けるのは無理がある。このままでは永遠に続けることになってしまうので、健全な林業の発展を期するのであれば、林業政策として見直し、補助ではなく恒常的な経費とすることを含めて、中長期的な計画を検討すべきではないか。</p>
説明員	<p>【F-02 茨木・ふれあいの森づくり事業】 <資料 補助金等適正化検証シート (F-02) に沿って説明></p>
外部委員	<p>収入と支出が全く同じ額だが、補助対象経費 116 万円の主な使途は何か。</p>
説明員	<p>約 1 か月の開園管理費や、弱った桜の植え替え費用である。</p>
外部委員	<p>サポートネットというのは、組合ではなく任意団体なのか。</p>
説明員	<p>市内で里山保全活動を行っているボランティア 4 団体を含む連合体である。市の里山センターの指定管理者でもある。なお、補助対象経費 116 万円は、サポートネット全体の収支ではなく、この事業費についての収支のみである。</p>
外部委員	<p>私有地なのか。</p>
説明員	<p>私有地である。かつては市が借り上げて事業を実施し、事業費として相当額を要していたが、現在の形になって効率的に実施できるようになった。</p>
外部委員	<p>この事業は、申請があつて補助対象となったのか。それとも、市からの指定があつて補助対象となったのか。他にも憩いの場となるものがあれば、同様に補助をもらえるのか。</p>
説明員	<p>もともと市が事業を実施していた経過から、引き続き実施している団体に対して補助している次第である。</p>
議長	<p>検証シートに目的として記載しているとおり、都市住民と地域住民等とが</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>連携・協働した里山の再生・保全活動を促進するかが要件である。</p> <p>【F-03 松沢池環境整備事業補助金】</p> <p>＜資料 補助金等適正化検証シート（F-03）に沿って説明＞</p>
説明員	この松沢池の他に、ため池は無いのか。なぜ松沢池だけなのか。
外部委員	万博の際に市章をデザインした花壇を市が整備したことから続いている。
説明員	他になく松沢池のためだけの補助金となっており、継続していくのであれば、補助金という性格の適否を検討すべきではないか。
外部委員	補助金を廃止するとなると、市章を撤去して護岸を自主管理してもらうように見直すことになるが、時期等については今後検討したい。
説明員	補助金のみではなく、会費収入をとられているので、自立化を図れないか。
外部委員	相手先である改良区は、他のため池の管理も行っていることから、松沢池の市章花壇のため負担を増やすことは難しいと思う。
説明員	せっかく特徴のあるものなので、効果をPRする等、このため池に特別に力を入れることについて、市のため、近隣住民のためという、論理的な説明ができれば良いと思う。
外部委員	かつては、名神高速道路等から見えていたが、現在は防音壁によって見えなくなっている。近隣住民の健康を目的としたウォーキング等で目に触れる機会はある。
説明員	広報誌や阪急等の冊子で取り上げられる等、活用されれば良いと思う。
外部委員	
	<p>【F-04、05 茨木市農林業団体交流活動事業等補助金（総括）】</p> <p>＜資料 補助金等適正化検証シート（F04~F05 総括）に沿って説明＞</p>
説明員	都市と農村の交流にとって、どう有効でどれくらい振興されたのか。
外部委員	
説明員	F04については、各種研修を受けられることで、より安全・安心な農産物の供給に寄与している。F05については、地域の魅力の掘り起こし等を行うことで、都市住民の訪問が増加し、直売所への来客者数も当初の7～8

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
説明員	万人から現在は10万人へと増えた。 PRについては、広報誌への掲載や関西ウォーカー等プレスへの発表を行っていることもあり、来客数は多い。
外部委員	成果やメリットがあるなら、現状200円の会費を増額することによって、自立への道筋をつけることが重要である。
説明員	加入の会費としては200円だが、研修会に参加する場合は食事については自己負担がある。
外部委員	補助金はスタート時のモーター役であり、回り出したら自立に移行すべきだ。
説明員	団体の運営経費や会員の利益のための補助ではなく、市民一般に益のある事業に対する補助としてとらえている。
議長	研修については、親睦や交流のためだけではなく成果が見えるものとなるよう、補助金を見直していきたい。
	以上